

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和6年度 第3回)

1. 日 時 : 令和6年11月27日(水) 13:00~14:30
2. 場 所 : 海老名市立今泉小学校 CSルーム (南棟1階)
3. 出席委員 : 木島智恵美委員長、守屋佐千子副委員長、中野隆則委員、和泉雅幸委員、岩崎恵委員、和田修二委員(校長)、中島忠相委員(教頭)、金指太一郎委員(校長補佐)

4. 会議の内容(進行: 金指校長補佐)

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

和田校長: 巷では、新型コロナ、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎などが流行しています。本校では、毎日5%(50人)くらいの児童が何らかの理由で欠席しますが、感染症等を理由に欠席する児童はあまりいません。

本日は、本校児童へのインタビュー等を予定しており、これまでとは異なる協議会となります。本日はよろしくお願い致します。

(3) 「インクルーシブな今泉小学校」について

○和田校長 ~別紙資料「海老名市立今泉小学校の概要」をもとに説明 ~

○運営委員 2名の児童(運営委員)へのインタビュー

Q: 自己紹介をお願いします。

A: 男女2名(Tさん、Yさん)

Q: 学校ではどんな時間が楽しいですか?

A: 給食の時間が楽しいです(Tさん)。

体育の時間が楽しいです(Yさん)。

Q: インクルーシブな学校ってどんなイメージですか?

A: 先生も子どもも皆が優しくて、皆が分かり合っているイメージ(Tさん)。

暗いイメージではなく、明るいイメージ(Yさん)。

Q: インクルーシブの意味は?

A: 全てを包み込むという意味です。(Tさん)

Q: 学校にいろいろな子がいることをどう思いますか?

A: いろいろな人と一緒にいることで、差別しない関わり方を学ぶことが出来ると思います。(Tさん)

大人になっても様々な人と出会うと思うので、ためになると思います。(Yさん)

和泉委員：インクルーシブが明るいイメージとの答えがありましたが、正しい目で見ているからだと感じます。大人になると「楽しいこと」よりも「嫌なこと」が増えてきます。インクルーシブ教育は、その時に対応出来るような人に成長させることが出来るのではないのでしょうか。

そういったことを学んでいると思え、安心しました。

中野委員：我々の頃もいろいろな人はいたけれど、「嫌な奴」がいたら口を利かなくなるようなことがありました。みなさんは、とても良い経験していると思います。

守屋委員：素晴らしい感覚を持っていると思います。自分はもっと狭い視野でした。一方で、競争があると排他的になる傾向もあるのかなと思います。

和泉委員：野球で下手な子もいると思うけど、そういう子には教えたりしているの？

Yさん：はい。教えています。

Q：居心地のよい学校ってどんな学校？

A：考え方は違うけれど、お互いに認め合えていることが大切だと思います。(Tさん)  
差別が無くて、学校に行きたいなと思える学校。自分から話すことが出来る学校だと思います。(Yさん)

Q：自分の意見を言える環境は、「居心地のよい学校」ですか？

A：はい。そう思います。(Tさん)

Q：今泉小に変わってほしいところがあれば教えてください。

A：他学年の児童との交流が少なく、これを変えることが出来ればと思います。

(Yさん)

和泉委員：昼休みなどは、他の学年と遊んだりするのかな？

Yさん：約束する機会がありません。

Tさん：時々あります。

和泉委員：私が子どもの頃は、4年生対5年生のドッジボールなどをやっていましたが、みなさんはどうでしょうか？

Tさん：弟が高学年と遊んで楽しかったと言っていました。

守屋委員：他のクラス（同学年）に行って遊ぶことはありますか？

Tさん：オープンスペースなどで他のクラスの友達と遊んでいます。

～ ありがとうございます。二人に拍手をお願いします ～

～ 和田校長 インクルージョンについて図を使って説明 ～

守屋委員：昨日の市民学習会「対話の場」での話はとても素晴らしかったです。特に教員をめざす人にとって良いと思いました。ただし、不登校の子どもたちを包み込むことが良いことなのか？また、インクルーシブについて、必ずしも理

解が無い方もいらっしゃると思います。フルインクルーシブを進めていくことは、非常に難しいと感じています。

岩崎委員：ウェルビーイングという言葉が出ていました。また、フルインクルーシブを海老名市が5か年計画でやろうとしていることに無理があるのではないかと感じました。インクルーシブ反対の保護者もいらっしゃいます。そのような中で、フルインクルーシブを進めるためには、保護者の理解が必要ではないでしょうか。また、「いじめの問題」は、インクルーシブのどこに位置づけられるのかなとも思います。

和田校長：いじめは、自分の価値を押し付けていることが要因として考えられます。

岩崎委員：自分の職場でも障がいがある方が周りとうまくいかず仕事を辞めていくようなケースもありました。

和泉委員：昔は特殊学級がありました。また、支援学校の方が手厚いといった意見もあります。互いに意見を「すり合わせる」ことがインクルーシブでは必要ではないでしょうか。

和田校長：フルインクルーシブを進めるポイントとして、岩崎委員の言われた「保護者の理解」が重要ではないかと感じます。

中島教頭：登校渋りの児童対応を毎朝させていただいています。1年生も2学期がスタートし、随分と教室に入れるようになりました。

金指校長補：以前、保育園の入所担当をさせていただいた際に、障がいがあるお子様が保育園への入所を希望されたことがありました。当時は、どの園からも入所を断られましたが、一つの園だけが「是非、入所してください。周りの子どもたちが優しくなるから。」と受け入れていただいたことがありました。その後、その園を訪れると、障がいがある子に対し、周りの子どもたちが温かく接する姿を目にすることが出来ました。インクルーシブは、障がい等がある子ども以上に受け入れた側（子どもたち）にとっても相乗効果があると感じました。

中島教頭：教頭会では、インクルーシブをテーマに研究しており、「相模向陽館高校」を見学させていただきました。同校は、定時制課程単位制普通科の高校で、外国籍や小中学校で不登校を経験してきた生徒等、様々な生徒が在籍しています。

先生は、少人数の生徒に一人配置され、きめ細やかな指導がなされていました。やはり、インクルーシブを進めるためには、「人」が大切だと感じました。

和泉委員：神奈川県では、少子化の進捗により児童・生徒数が減少しています。そのため、公立高校の統廃合を進めています。教員数が手厚いのは、統廃合などにより教員数に余裕があるという背景もあります。

和田校長：本校でインクルーシブを進めている中で変わったことは、「子どもたちの声を聴いてみよう。」という機運が教員の中から上がってきたことが挙げられ

ます。

具体には、運動会のソーラン節を演技するにあたって、「はだし」にするか「靴」をはくかを、演技する子どもたちの声を聴いたうえで決定しました。その結果、各自自由にすることになりました。

(4) えびなっ子スクール参観【北棟3階第二理科室】

～ 学校応援団によるレジン作りを見学 ～

(5) 学校の様子について

○和田校長 ～ 学校だより「すだじい409号～410号」をもとに説明 ～

(6) 令和7年度予算について

○金指校長補佐 ～ 「令和7年度 今泉小学校予算編成について(概要)」で説明 ～

(7) 情報提供等

①海老名市LINE公式アカウントを活用した保護者連絡ツールについて

○和田校長 ～ 「『海老名市LINE公式アカウント』へのご登録をお願いします！」で説明 ～

②海老名市コミュニティスクール研修会兼中学校区学校運営協議会について

○金指校長補佐 ～ 「令和6年度海老名市コミュニティスクール研修会兼中学校区学校運営協議会(概要)」で説明 ～

③その他

木島委員：本日は、えびなっ子スクールを見学いただきありがとうございました。お陰様で、えびなっ子スクールをスムーズに運営することが出来ました。素晴らしい1年でした。一方で、えびなっ子スクールのメンバーから、「学校運営協議会」ってどんなメンバーでどのようなことをしているのか分からないといった声がありました。学校を支援する組織がどのようなものがあるのかということも含め、学校運営協議会についても説明をする機会があっても良いのではないかと感じました。

金指校長補佐：学校を支援する組織については、まとめてみます。

(8) 閉会挨拶

守屋副委員長：本日は、児童2人にもご協力をいただきました。「とっても良い子たち」でした。そして、インクルーシブを進めるためには、「人が大切」と感じました。本日はありがとうございました。